

『乱流の科学』正誤表

2024.01.09 朝倉書店編集部

I 第1刷 正誤表

- p.1 4行目 火炎土器 → 火焰土器
- p.7 22行目 (ファインマン) → (ファインマン, 1964)
- p.13 14行目 Rundstadler → Runstadler
20行目 preliminary results of ~ → Some preliminary results of ~
- p.14 図 1.25 Rundstadler → Runstadler
17行目 Rundstadler → Runstadler
- p.23 表の 12行目 Rundstadler → Runstadler
- p.27 13行目 Rundstadler → Runstadler
- p.60 32行目 末尾に下記の一文を追加
(Ω と ω の関係(式)については, p.222 の注 2 を参照)
最下段 $\eta = \omega_j$ → $\eta = \omega_y$
- p.61 20行目 式番 (2.76c) を追加
- p.94 30行目 齊藤兆吉 → 齊藤兆古
- p.301 7行目 ローレンツ(1961,MIT) → ローレンツ(1963,MIT)
- p.324 7行目 Rundstadler → Runstadler
図 5.3 Rundstadler → Runstadler
図 5.4 Rundstadler → Runstadler
- p.467 3行目 ~思い出させる). → ~思い出させる(p.301 参照)).
- p.497 注 19行目 ~流速分布のみならず, 乱れの強さ, 渦の寿命時間の変化も~

→～流速分布のみならず，渦の寿命時間の変化も～

p.541 21 行目 Rundstadler → Runstadler

p.984 15 行目 DiPrima → Di Prima

p.1095 23 行目 半減期 288 年 → 半減期 28.8 年

(人名索引)

p.1111 Rundstadler → Runstadler

(事項索引)

p.1112 下記の項目を追加
Karman-Howarth の理論 254
Kolmogorov の $-4/5$ 則 203

p.1113 下記の項目を追加
エンストロフィーの変化式 285

p.1114 カルマン理論 606, 974, 979 → カルマン理論 606
下記の項目を追加
カルマンフィルター 974-982

p.1115 散逸(構造) → 消散 → 散逸(構造) 203 → 消散
消散 227 → 消散 203, 219, 221, 223, 227

p.1116 下記の項目を追加
滑り剤 807, 808, 946

p.1119 下記の項目を追加
ポリマー滑り剤 807, 808
乱れエネルギーの方程式 793

II 第 2 刷訂正

p.201 3 行目

原詩の第2行目の that は big whirls を指し, their は little whirls を意味する.

→多くの論文の引用の場合のように分かち書きとすれば, Little whirls に続く2行目(改行後の先頭)の That は主語の Big whirls を指し, 訳は第1刷りのように

‘それ等の大渦はその小渦の(小渦に)速度を供給している’

となる. Hunt et al.の改詩(2010, p.81)はこの立場を採っている.

また, Richardson の元論文のように, 改行なしの分かち書きでなければ, that は関係代名詞と見做され little whirls を指し, 訳は

‘それらの小渦は大渦の速度を食っている(餌としている)’ (ゴチでは無く, 黒字とする)

となる.

いずれの訳も, 現象としては誤りではなく, どちらの訳も正しい. この辺の事情については, 書店のHP(ホームページ)「補遺 ver. 6」を参照.